



けやき

令和 2 年 8 月 2 4 日
東村山市立東村山第六中学校
学校だより 9 月号
東村山市秋津町 2-29-14
発行者 校長 大堀 浩

「礼を正す」

校長 大堀 浩

◆藤井聡太棋聖が、王位のタイトルも奪取し、二冠となりました。

勝利の瞬間、対戦相手に深々と礼をしている姿がとても印象的でした。その礼は将棋盤の面よりも低く、相手よりも先に頭が上がることはありませんでした。それは、最年少で二冠・八段昇段の偉業達成へとつながる謙虚さの現れでもあったのでしょ

う。幼少期からの負けず嫌いが全国から集まった将棋の世界、勝てば嬉しく有頂天にもなり、負ければとても悔しいはずですが、それでも、藤井二冠はこの礼の姿勢を崩しません。

勝負事では、勝つときよりも負けるときほど人柄が出るといいます。特に将棋では、審判が「負け」と判定してくれるのではなく、自ら「負けました」と言わなければなりません。悔しい自分の気持ちに整理をつけ、頭を下げるのです。

私たちもつい「嫌だ」とか、「悔しい」という気持ちを態度に表してしまいがちですが、将来社会に出たときには、いつもそういう訳にはいきません。自分の気持ちをコントロールできるようにすることや、どのような場面でも相手を尊重する態度を身に付けておくことはとても大切なことです。発達段階に応じて、できるようにになりたいものです。

また、礼儀としても丁寧なお辞儀や礼は良いことです。今年度はコロナ禍で、始業式や終業式、全校朝礼等でも生徒の皆さんと顔を会わせて話ができずに残念です。相互に気持ちを込めてお辞儀・礼をすることを引き続き実践していきたいものです。生徒の皆さんも、まずは授業の開始や終了の礼について意識して実行してみましょ

う。行ってみてください。

学習・授業へ取り組む姿勢も変わってくるかもしれません。

◆いじめをはじめとした人間関係の難しさなどを要因の一つとして、生徒が自死するなど深刻な事態に至ってしまう事件等が報道されています。特に、長い休みの後に増える傾向があるそうです。1学期の「ふれあい月間」では、相談室の案内を配付するとともに、担任からも「生命の大切さ・尊さ」等について指導をいたしました。

一人の人に両親がいて、さらにその祖父母がいてというように先祖を数えていくと、10代さかのぼると約2000人、20代さかのぼると100万人を超える人の命が繋がっています。一人でもいなければ、私たちはここにいません。お盆にお墓参りをした人もいます。そのように尊く、かけがえのない生命を、私たちは大切にするとともに、尊重していかなければなりません。何かあっても一人で悩まず、まず信頼できる人に相談するよう引き続き指導してまいります。

◆今年の関東甲信地方の梅雨明けは8月1日でした。梅雨明けが8月になるのは13年ぶりとのことで、7月中は雨が続き、2学期の活動が始まりました。例年10月に行われる合唱コンクールも、3月13日(土)に変更いたしました。第3学年の修学旅行もなく、平年とは違う2学期の開始となっています。

◆体育館空調設備設置工事では、部活動で青葉小学校・秋津東小学校をお借りいたしました。もうすぐ完成の予定となります。

引き続き、保護者・地域の皆様の御支援・御協力等をお願いいたします。